関東地方整備局 1/1

路側線

下表は、平成15年度道路環境センサスとして直 |轄国道で行った調査結果を調査地点別に表示したも のである。

平成 15年度道路環境センサスデーター覧表

騒音の新環境基準との比較は、全ての調査地点を 対象に行っているが、調査地点において環境基準の |類型指定がなされていない場合は、超過・非超過の |状況を()付きで表示した。

表示順位は、都府県支庁指定市別、路線番号別、 調査単位区間番号の順で並べた。

「 - 」は入力データが無いことを示す。

環境基準、要請限度超過・非超過状況

: 環境基準類型指定または 騒音規制区域指定の対象外 環境基準:昼間70dB 夜間65dB 要請限度:昼間75dB 夜間70dB

車線数は、併設道路を含む。(12欄) 環境基準類型、騒音規制区域の指定状況は、

: 指定有り 空白: 指定無し とした。(13~14欄)

環境基準の類型指定延長は、上下車線別に求め、その合計を2で除した。(17欄) 環境対策設置延長は、上下車線別に設置された延長の合計となっている。(23~27欄) 遮音壁高さ(28欄)は測定地点における値のため、設置延長の有無にかかわらず「-」と表記される区間もある。

舗装種別は以下に示すとおり(22欄) 密粒As : 密粒アスファルト 排水性As:排水性アスファルト

その他As: その他のアスファルト コンケリート : コンクリート その他 : その他

沿道建物の状況は以下のとおり(31~32欄)

両側 : 両側に建物がある 測定側: 測定側のみ建物がある 反対側: 測定点の反対側のみ建物がある 無 : 両側とも建物がない 不明 : 不明

策予定記 載 —><u>≼ 50m</u> 方

調査種別番号(33欄)は以下のとおり

1:平成15年度実測 5:前年度データを補完

対

法

低騒音舗装 40m 延長の考え方

環境施設対設置延長(35~44欄)は以下のとおり記載する。

: 通常の場合は入力不要。新型遮音壁の場合は、

できるだけ詳しく種別を入力。 「新型遮音壁」は不可。(例)ASE遮音壁

高さ : 四捨五人により整数とする。 高架裏面吸音板:小数点以下2桁を四捨五人 低騒音舗装:延長の考え方は右図参照。少数2桁を四捨五人

環境施設帯:小数点以下2桁を四捨五入 遮音壁 : 小数点以下2桁を四捨五入

その他 : 小数点以下 2 桁を四捨五入

中央線 延べ延長 50+ 40+ 30 延長 = -= 40m 車線数 3

要請限度 騒音レベル 測定位置 環境対策設置延長(km) 評価対象地域内環境対策設置延長(km) 道路条件 併設道路 沿道建物 測定データ Νo D 区間 延 (km) 環境 超過・非超過 超過・非超過 (dB) 情報 現況 H15調査時 [片側換算] 沿道状況 指定状況 基準の 事務所 壁高さ 高架 裏面 吸音 板 舗装 壁 調査 単位 区間 番号 類型指定延長 高架 裏面 吸音 板 無報 無音 編装 壁 路線名 地点名 測定点側 の車道 中央との 延長 都道府 則定点 低層 遮音 道路形態 環境 騒音 道路 敷幅 環境 施設 帯 低層 遮音 実測 調査 区間 内番号 環境 施設 帯 遮音壁 遮 音 壁 舗装 種別 道路の有無 数 基準 規制 昼間 夜間 (km) 道路 昼間 夜間 昼間 夜間 (m) (km) 指定市 Leq Leq 形態 類型 区域 壁 壁 年度 (m) 距離 (m) コード -般国道17号 群馬県藤岡市立石字萩谷戸1267-1 10000 1001 76 75 7.5 0.7 0.70 0.70 平地部 20 平面 密粒As 0 0 0 0 無 5 2001